

農産物流の活性化に

大隅グリーンロード開通

大隅半島を横断し農畜産物の生産と流通への効率化を図る、大隅中央区域農業用道路(愛称・大隅グリーンロード)の開通・完工式、祝賀会が19日、曾於郡大崎町岡別府の大崎中央大橋と肝属郡串良町の町民会館で開かれ、国や県、沿線の鹿屋、串良、大崎、有明、志布志の1市4町の行政、議会関係者ら約1300人が出席して完工を祝った。



開通を祝いテープカットする関係者ら
=大崎町の現地で

同道路は、鹿屋市東原町を起点に串良、大崎、有明町を経て志布志町安楽に至る21・5kmの農業用道路。片側1車線、全幅員8m(歩道2m含む)、設計速度は50km。区間内

には9カ所の橋梁がある。今回開通したのは鹿屋、串良、大崎間の約15km。整備が進む有明町の蓬原、高吉間(野井倉大橋含む)1・5kmは3月末には全面通行となる。また、

受益面積の畑作・水田営農の区画整備、暗渠排水、土層改良など整備事業が行われた。

当日は大崎町の中央大橋近くで開通式が行われ、関係者代表らがテープカ

林業改良普及活動実績発表大会

全国大会へ重森氏(加治木指導区)



大会挨拶を行う県林務水産部の諏訪部長
=鹿児島市の県歴史資料センター黎明館で

導区、塩川哲氏(出水指導区)の出場が決まった。

今回も県の職員をはじめ、市町村や森林組合の職員ら約2000人が参加。スクリーンを使った発表者の実績発表に熱心に耳を傾けていた。

同大会は、各指導区における林業改良指導員の自己研さんと創意工夫による普及活動の成果を発表し、指導員の資質及び意欲の向上を図ることを目的に、昭和26年度から毎年開いているもので、審査結果に基づき全国大会及び九州大会出場が認められる。など述べた。

その施策等については、県土木部住宅課の担当職員が説明。「1戸建ての木造軸組工法の住宅で、木・造作工事における合板など各種ボード類の品質はF☆☆☆☆以上であること」などその建設基準について話したほか、「居住性や耐久性、安全性等で高い水準を有し、環境負荷の低減に配慮した高規格住宅工事(環境配慮型)を行う場合は、割増の融資制度が設けられている」と説明した。

九州電力(株)鹿児島支店は20、21日、指宿市の指宿海上ホテルと加世田市の加世田市商工会議所で「火災認定除外・営業手法セミナー」を開催し、建設関係業者らが出席してオール電化住宅の効果的

な販促手法等について学んだ。

今回のセミナーは、県と鹿児島市が16年に電磁誘導加熱調理器が建築確認での「火災」扱いに該当しないことと判断したことを受けて、顧客に対する的確なプレゼンテーションへとつなげてもらいたいというのを基本コンセプトとして実施。指宿会場に約40人、加世田会場に約50人が出席した。

今回も、ADL地域建築デザイン研究所の沖田清所長と、日本増改築産業協会九州一高商会の小野裕美事務局長を講師に招いて行われた。沖田氏は「火災認定除外で何が変わり、営業をどう進めるか」と題し、IHクッキングヒーターの安全性や、ビルダー会員が総ヒノキムク材のオール電化住宅を受注したことなど具体的な例を示しながら講演。

また、小野氏も「オール電化からリフォーム工事へ」と題して講演し、見込み客の発掘方法や、機器取り替えからリフォーム受注へつなげていく手法などについて説明。いずれの会場でも、出席した関係者がメモを取りながら真剣な面持ちで聴き入っていた。

かごしま環境共生住宅講習会

普及促進へ理解深める



真剣に聴講する受講者ら
=鹿児島市のかごしま県民交流センターで

県と県住宅・建築総合センターの主催によるかごしま環境共生住宅講習会(鹿児島会場)が21日、鹿児島市のかごしま県民交流センターで開かれた。参加した約80人の建築設計関係者は同住宅の普及促進に向け、その特性等について理解を深めた。

会では、武田敏郎(株)武田建築事務所社長が同住宅の定義、方針などについて解説。「エネルギーや資源等への十分な配慮や周辺の自然環境と親密に調和した住宅。また、住み手が主体的に係わりながら健康で快適に生活できるような工夫されたもの」と定義付けし、「本県の多様な地域特性を反映し、最新の技術と伝統をバランスよく組み合わせる」と説明した。

県土木部住宅課の担当職員が説明。「1戸建ての木造軸組工法の住宅で、木・造作工事における合板など各種ボード類の品質はF☆☆☆☆以上であること」などその建設基準について話したほか、「居住性や耐久性、安全性等で高い水準を有し、環境負荷の低減に配慮した高規格住宅工事(環境配慮型)を行う場合は、割増の融資制度が設けられている」と説明した。

九州電力(株)鹿児島支店は20、21日、指宿市の指宿海上ホテルと加世田市の加世田市商工会議所で「火災認定除外・営業手法セミナー」を開催し、建設関係業者らが出席してオール電化住宅の効果的

な販促手法等について学んだ。

今回のセミナーは、県と鹿児島市が16年に電磁誘導加熱調理器が建築確認での「火災」扱いに該当しないことと判断したことを受けて、顧客に対する的確なプレゼンテーションへとつなげてもらいたいというのを基本コンセプトとして実施。指宿会場に約40人、加世田会場に約50人が出席した。

今回も、ADL地域建築デザイン研究所の沖田清所長と、日本増改築産業協会九州一高商会の小野裕美事務局長を講師に招いて行われた。沖田氏は「火災認定除外で何が変わり、営業をどう進めるか」と題し、IHクッキングヒーターの安全性や、ビルダー会員が総ヒノキムク材のオール電化住宅を受注したことなど具体的な例を示しながら講演。

また、小野氏も「オール電化からリフォーム工事へ」と題して講演し、見込み客の発掘方法や、機器取り替えからリフォーム受注へつなげていく手法などについて説明。いずれの会場でも、出席した関係者がメモを取りながら真剣な面持ちで聴き入っていた。

また、小野氏も「オール電化からリフォーム工事へ」と題して講演し、見込み客の発掘方法や、機器取り替えからリフォーム受注へつなげていく手法などについて説明。いずれの会場でも、出席した関係者がメモを取りながら真剣な面持ちで聴き入っていた。

また、小野氏も「オール電化からリフォーム工事へ」と題して講演し、見込み客の発掘方法や、機器取り替えからリフォーム受注へつなげていく手法などについて説明。いずれの会場でも、出席した関係者がメモを取りながら真剣な面持ちで聴き入っていた。